

認知症とともに班 活動報告

三重県作業療法士会では、①知識と技術の研鑽の場づくり、②OTが地域に出て活動するための仕組みづくりを目的に、2017年度から認知症作業療法推進委員会（現、認知症とともに班）が発足し活動している。2021年度から活動目標を「**認知症フレンドリー社会を目指す**」と掲げ、実践している。2026年度はより認知症のご本人や他団体にOTの視点が役に立てるため、地域実践できる人材育成や、本人ミーティングの手引き（案）を作成していく。

① 認知症フレンドリー社会：買い物（2021-23）、本人ミーティング（2024-26）

- 2022年度：企業班 → 移動スーパーへの聴き取り調査、スーパー店員へのアンケート作成
当事者班 → スローショッピングにて当事者とともに買い物を行い、生活行為工程分析表（PADA-D）を用いて分析
- 2023年度：2店舗の小売業79名の店員に買い物アンケートを実施、難聴の方との関わり方を資料を用いて伝達、地域リハ便りでOTに周知。
- 2024年度：OTの力を本人発信の推進に活かすことを目指して、認知症カフェ・DSで本人ミーティングを開催し、当事者の声を生活や活動に活かすことができた。実践内容は研修会で報告、現在は運営者やボランティアらが継続して本人ミーティングを開催している
- 2025年度：県内の認知症治療病棟、DS、認知症疾患医療センターと行政との共同で本人ミーティングを開催。
報告会では、54名（OT16名、他職種38名）の参加者が集まり、ご本人の声を聴く大切さとOTの視点が共有できた。
- 2026年度：本人ミーティングで実践してきた内容やOTの視点、工夫をまとめていく。

② スキルアップ研修会

2021年度から三重県地域医療介護総合
確保基金事業を活用、「施策に基づいて
創出されている地域の多様な資源・取組
についての知識の普及」「地域生活を視
野に入れた臨床支援を展開できるスキルの
研鑽」「行政等と連携して地域の資源
に参画し、専門性を発揮できるスキルの
研鑽」を目的に、認知症リハビリテー
ションの視点と実践に繋がる内容で実施。
2020年度：IADLの工程分析と介入
2021年度：地域実践
2022年度：予防事業
2023年度：本人発信支援事業、企業連携
2024年度：本人と家族を支える視点
2025年度：実践プロトコル
2026年度：未定

Mission1

知識と技術の研鑽の場づくり

認知症フレンドリー 社会を目指す

Mission2
OTが地域に出て活動する
ための**仕組みづくり**

③ カフェ・回想法 勉強会（座学と実習）

2022年度は県内の認知症カフェより運営支援43回、当事者における交流支援と人材育成で37回依頼あり、2020-22年度の回想法勉強会では延257名が育成されたが、地域実践に繋がる方が少ない。そこで年3回の座学と2023年度からメモリーカフェ「日永」、2024年度から渚茶カフェへ実習できる形を構築。2023-25年度の座学は187名、実習は23名（延34名）が参加。実習者の中から、カフェ立ち上げ支援1名、運営支援4名、参加5名、回想法の活用5名繋がった。2026年度は回想法とカフェ紹介の座学2回、カフェ支援の実践ができる人材を育成していく。

④ 全国認知症OTオンライン交流（みえーる）

2026年度は12/12に、精神科・認知症疾患医療センター・訪問における診断後支援の取組紹介を行い、情報交換会を実施予定。

⑤ 関係機関との連携

- ・ **認知症の人と家族の会**：若年のつどい世話人OT2名、世界アルツハイマーデー記念講演会にOT2名が運営支援に参画。
- ・ **三重県**：2021-23年度OT5名がチューターとなりチームオレンジ支援。2024年度認知症施策推進計画策定会議に出席。
- ・ **基幹型認知症疾患医療センターの認知症予防教室（脳活っ塾）**：2025年度OT8名が講師として参画。
- ・ **亀山市**：2025年度亀山市立図書館認知症啓発活動にOT3名が参画。生活の工夫の推薦図書をまとめ貸し出し本となる。
- ・ **四日市市**：認知症市民公開講座啓発事業の展示協力依頼があり、士会における認知症活動の展示と啓発を実施。
- ・ **RUN伴四日市**：OT8名が実行委員として参加。当事者、他団体、企業と協力連携。

[illegible]